

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：21201

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13940

研究課題名（和文）トランスナショナルな福祉サービス供給体制の構築

研究課題名（英文）Establishment of a transnational welfare service supply system

研究代表者

日野原 由未（Hinohara, Yumi）

岩手県立大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：90783556

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、クライアントの人種的・民族的多様性という観点から福祉サービス供給に求められる今後の再編のあり方を明らかにすることである。本研究では、イングランドの成人社会的ケアと医療制度（NHS）を中心に、イギリスの福祉制度において多様なクライアントを包摂したサービス供給の仕組みをいかに構築しているのかを、制度面と現場における人材の観点から検討した。相談援助の観点から、外国人クライアントへの福祉サービス供給において生じる新たな質的に多様な需要への対応の必要性を指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、外国人住民が増えるなかで、サービスを利用するクライアント自体の多様化が進み、質的需要への対応として外国人材が求められる状況について明らかにした点は、当該分野の発展に寄与した。イングランドの成人社会的ケアで働く外国人ソーシャルワーカーに着眼し、相談援助の点から外国人材が果たす役割について考察したことで、この点を明らかにした。また、国民国家を前提として議論されてきた福祉サービス供給体制に対して、トランスナショナルな枠組みの構築の可能性について言及することで、当該分野の学術的な貢献を果たすことにつながった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to identify the future restructuring required of welfare service provision in terms of the racial and ethnic diversity of clients. Focusing on the adult social care and health system (NHS) in England, this study examines how the UK welfare system has developed a system of service provision that is inclusive of diverse clients, both from the institutional and frontline human resource perspectives. From the perspective of consultation assistance, the study pointed to the need to respond to new and qualitatively diverse demands arising in the supply of welfare services to foreign clients.

研究分野：社会福祉学

キーワード：外国人材 福祉サービス エssenシャルワーク キーワーク

## 1. 研究開始当初の背景

周知のように、世界でもっとも高齢化率の高いわが国では、今後ますます増大が見込まれる医療・福祉サービス需要に対して、いかに高い質を保ちつつ効率的に対応することが可能であるか、という点にさまざまな学問領域、あるいは社会一般からの関心が注がれる。少子高齢化に伴うサービス需要の拡大と、サービス供給を担う専門職の人的資源の不足という問題に直面するなかで、今後のわが国におけるこれらのサービス供給をめぐる、とりわけ「効率性」がより重要な規範に位置づけられると考えられる。

他方で、対人社会サービスに位置づけられる医療・福祉サービスは、人びとの生命の安全や健康に密接することから、その「質」の担保はきわめて優先度の高い規範となる。これらのサービスの供給においては、クライアント個々人の状況に応じた細やかな対応が求められる。こうしたなかで、わが国を含め多くの国が直面するもう一つの問題が、クライアントの多様化に伴う医療・福祉サービス需要への対応をめぐる議論である。より具体的には、移民や外国人住民が増大するなかで、言語や文化的慣習の異なるクライアントに安全・安心に受けられる医療・福祉サービスを供給することが求められている。

社会を構成する人びとの国籍や人種の多様化は、医療・福祉サービスに量的な需要拡大だけでなく新たな需要を生み出す。たとえば、母国語の異なる住民の医療福祉需要への多言語での対応や、人種、民族的マイノリティ特有の社会福祉課題への対応等、住民の多様化に伴って新たに生じる医療福祉課題はさまざまある。日本も含め各国の医療現場における医療通訳の配置等は、こうした課題への対応策の一つといえる。医療分野では外国人の患者あるいは外国人の医療人材による医療行為において、言語的障壁を解消することの必要性とその取り組みが実施されており、これは医療通訳の配置を進める日本の医療現場も例外ではない。

他方で、福祉サービスにおいてはクライアントの人種的・民族的多様性への配慮は少なくとも日本において解決すべき課題として社会的に認識され制度設計が行われる状況にはない。しかしながら、ソーシャルワークの実践において行われる対人援助では、クライアントの生活全般の状況把握が不可欠であり、この点においてクライアントが抱える問題を解決する際に彼らのバックグラウンドにある文化や宗教、民族性等への理解を深めることが求められる。たとえばイギリスでは、難民 (refugee) に対する社会的支援の担い手としてソーシャル・ワーカーが機能しており、難民と同じ国の出身や母語が同じソーシャル・ワーカーによる対応もみられる。こうした分野は、日本では社会福祉学の研究としても開拓されていない研究領域であるとともに、社会的にも問題の可視化が進んでいない領域でありながら、今後は確実に国レベルあるいは自治体レベルでその対応が求められる問題となる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、クライアントの人種的・民族的多様化という観点から福祉サービス供給に求められる今後の再編のあり方を明らかにすることである。既述のとおり、医療・福祉サービスの供給をめぐる、少子高齢化、あるいはその先に待ち受ける人口減少社会の到来という観点から、今後の再編のあり方に関する社会的関心は高く、研究としてもこうした関心に沿って進められる状況にある。

しかしながら、現代社会の医療・福祉サービスが直面する課題は少子高齢化だけではなく、外国人住民が増えるなかで彼らに対して適切なサービス供給体制を整備する、という課題にも直面している。いずれの課題も、現代社会が直面する人口動態の変化を背景としているが、後者は日本では差し迫った課題としてこれまでの研究は進められていない状況にある。

国際移住機関(IOM)の調査によれば、世界中で国際移動している人の数は1990年のおよそ1億5千万人から、2015年にはおよそ2億4千4百万人へと増加し、法務省の調査によれば、日本では在留外国人数と訪日外国人数は年々過去最高値を更新する状況にあり、日本もその例外ではない。日本に暮らす外国人住民の生活ニーズに応えるうえで、医療や福祉サービスはきわめて優先度の高い政策領域であり、このことから、外国人住民の存在を前提とした制度設計が求められている。

本研究は、相談援助の観点から、外国人クライアントへの福祉サービス供給において生じる、新たな「質的な」需要への対応の必要性を指摘し、イギリスの実践を踏まえながら外国人ソーシャル・ワーカーの活用も念頭に置き、今後の福祉サービスに求められる再編を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

文献調査を中心に研究を行った。文献調査にあたっては、コロナ禍に国内でアクセスできる文献の入手を進め、2023年には渡英してロンドン大学図書館での調査を行った。また、渡英時に

は現地の研究者とイングランドのケアの質委員会（CQC）へのヒアリングを行い、イングランドのケアサービスに供給において、公正に移民や難民のクライアントにサービス供給を行うことに対して CQC が果たす役割について調査した。

#### 4．研究成果

イギリスで実施した調査では、多様なクライアントを想定した際の福祉サービス、医療サービスの公正な提供のあり方について、CQC の役割を中心に調べた。また、コロナ禍以降の動向に着目し、ケアワークやソーシャルワークをエッセンシャルワーク（キーワーク）という視点でとらえた際に、こうした領域で外国人材を導入することの意義と課題について検討した。意義としては、コロナ禍を経て一層重要性が認識されたケアワークやソーシャルワークの領域において、外国人材の導入は労働力の補てんのみならず、人種的・民族的多様性が進んだ社会におけるエッセンシャルワークの提供という点で、改めてその必要性が指摘される。他方で、課題としては、イングランドの全国最低賃金・全国生活賃金額、イングランドの各産業の月収中央値、ケアワーカーと他の低賃金業種の月収中央値との比較等のデータから、とエッセンシャルワークの提供という極めて社会的貢献度の高い仕事において、とくに外国人材の受け入れが進む領域での賃金の低さが指摘された。

イギリスでの調査は、コロナ禍からポストコロナの自治体福祉部門の業務逼迫の影響があり、当初の予定通り実施することができなかった。このことから、研究の視点を再考し、イギリスの福祉システムそのものが、移民や難民をはじめ、多様なクライアントが等しく利用可能であるためにどのような仕組みを築いているのか、制度面からの考察を行った。とくに、医療制度の NHS と公的扶助を含む現金給付の仕組みであるユニバーサル・クレジットに着眼し、これらの制度において、多様なクライアントのアクセスを可能にする仕組みがどのように築かれているのか、イギリスの福祉制度が依拠する普遍主義の理念を踏まえて検討した。この点の考察を行ったことで、イギリスの福祉サービスにおいて多様なクライアントを排除しない仕組みを設計する背景について、普遍主義の観点からとらえることができた。そして、この点を踏まえると、日本や他国の福祉サービスにおいて、クライアントの人種的・民族的多様性への配慮を考える際に、こうしたクライアントへの言語的・宗教的配慮に限らず、そもそもの福祉システム自体のアクセシビリティという点が重要であり、前提として「誰も排除しない」福祉システムの構築を目指すことが必要であるという知見を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 日野原由未	4. 巻 23
2. 論文標題 Brexit後のイギリスの医療と外国人医師 完全離脱による影響を探る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 65,71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日野原由未	4. 巻 21
2. 論文標題 イングランドの成人社会的ケアにおける外国人材 Brexit決定による影響を踏まえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 71,77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日野原由未	4. 巻 149
2. 論文標題 イギリスにおける福祉国家の制度へのアクセス 普遍主義の理念を支える仕組みとは	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 103,108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 水島治郎、米村千代、小林正弥、日野原由未ほか7名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 公正社会のビジョンー学際的アプローチによる理論・思想・現状分析	

1. 著者名 日野原由未	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 帝国の遺産としてのイギリス福祉国家と移民 脱国民国家化と新しい紐帯	

1. 著者名 武智秀之, 日野原由未ほか8名	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 307
3. 書名 都市政治論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------